

水辺の散乱ゴミの指標評価手法（海岸版）

1 現況写真の撮影方法

海岸における漂着ゴミの状況を写真撮影する条件を下記に示します。

- (1) 海岸が砂浜か岩場か、徒歩で行けるか降りられるかそれぞれ条件が異なりますが、概ね次に図示した3つの事例を参考にして、4方向又は3方向に向けて撮影します。
- (2) 撮影する際、デジタルカメラのファインダーの上端が、水際線又は地平線よりほんの少し下に位置するようにデジタルカメラを下方に傾けて撮影します。

※使用するデジタルカメラのズーム機能は使用せずに撮影します（焦点距離35mmが基準）。




<p>写真撮影 事例 A</p> <p>奥行きがある海岸 (砂浜)</p> <p>4方向の撮影</p>	<p>調査海岸の中で代表的(平均的)な100m</p> 
<p>写真撮影 事例 B</p> <p>奥行きがない海岸 (砂浜)</p> <p>3方向の撮影</p>	<p>調査海岸の中で代表的(平均的)な100m</p> 
<p>写真撮影 事例 C</p> <p>奥行きがない海岸 (岩場)</p> <p>3方向の撮影</p>	<p>調査海岸の中で代表的(平均的)な100m</p> 

図3-8 水辺の散乱ゴミの指標評価手法（海岸版）

資料提供：特定非営利活動法人 パートナーシップオフィス

2 ゴミ状況<ランク>の判定方法

撮影地点を中心に、海岸線延長距離約 10m に漂着しているゴミ（自然物を除く）の量（かさ容量）を目視で確認します。

〔10m〕×〔海岸の奥行き〕の範囲にある漂着ゴミを回収したと想定した場合、中型の家庭用ゴミ袋（幅 50cm×高さ 60cm）でおよそ何袋必要になるかを推測します。

下表より**ゴミ袋の数量**に対応した**<ランク>**を求めます。

ゴミ袋数と<ランク>の対応表

〔海岸線延長距離 10m〕×〔海岸の奥行き〕の範囲の漂着ゴミを回収したと想定

ランク	ゴミ袋の数量 (袋)	回収した際のゴミのかさ容量の表現として	かさ容 量 (ℓ)
0	0	(自然物を除いて) 全くゴミがない	0
T	約 1/8	500mlのペットボトルなら 3~4 本分程度	2.5
1	約 1/4	2ℓのペットボトルなら 2 本分程度	5
2	約 1/2	2ℓのペットボトルなら 4 本分程度 200~350 mlの飲料缶ならば 15 本分程度	10
3	約 1	2ℓのペットボトルなら 8 本分程度 200~350 mlの飲料缶ならば 30 本分程度 ポリタンクならば 1 本分程度	20
4	約 2	2ℓのペットボトルなら 16 本分程度 ポリタンクならば 2 本分程度	40
5	約 4	2ℓのペットボトルなら 32 本分程度 みかん箱ならば 3 個分程度	80
6	約 8	ドラム缶ならば 1 本分未満	160
7	約 16	ドラム缶ならば 1.5 本分未満	320
8	約 32	ドラム缶ならば 3 本分未満	640
9	約 64	1 立方メートル程度	1,280
10	約 128	軽トラックで 1 台分程度	2,560

「水辺の散乱ゴミの指標評価手法（海岸版）」は国土交通省東北地方整備局、J E A N / クリーンアップ全国事務局（現一般社団法人 J E A N）、及び特定非営利活動法人パートナーシップオフィスが、協働で 2004 年に開発したものです。

図 3-9 水辺の散乱ゴミの指標評価手法（海岸版）

資料提供：特定非営利活動法人 パートナーシップオフィス